

予報第5号(9月)

農推第2131号
平成26年8月27日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について次のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予報第5号(9月)

農作物名	病害虫名	予想発生量
水稲	いもち病	●
	紋枯病	□
	内えい褐変病	○
	もみ枯細菌病	□~○
	縞葉枯病(ヒメビウンカ)	□~○
	セジロウンカ	□~△
	トビイロウンカ	□
	ツマグロヨコバイ	□
	ニカメイガ(ニカメイチュウ)	△
	コブノメイガ	△
	フタオビコヤガ(イネアオムシ)	△
	斑点米カメムシ類	□~○
ぶどう(デラウエア)	べと病	□~○

	褐斑病	○
みかん	黒点病	□～○
	そうか病	□～○
	ミカンハダニ	○
	ミカンサビダニ	□～○
果樹全般	果樹カメムシ類	●
なす	うどんこ病	△
	褐色腐敗病	□～○
	褐紋病	□～△
きゅうり	うどんこ病	□～△
	炭そ病・褐斑病	□
	べと病	□～○
	ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)	□
	コナジラミ類	□～△
トマト	コナジラミ類・トマト黄化葉巻病(TYL CV)	□～△
キャベツ等あぶらな科葉菜類	コナガ	△
	ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイ)	□～○
野菜・花き・大豆	アブラムシ類	□～△
野菜類 花き類	ミカンキイロアザミウマ	□
	ミナミキイロアザミウマ	□
	シロイチモジヨトウ	△
	ハスモンヨトウ	□
	オオタバコガ	○
	ハダニ類	□～○
	ハモグリバエ類	△
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

◎農薬については、大阪府農作物病害虫防除指針を参考にしてください。

7月の気象予報(大阪管区気象台6月28日~7月27日分予報)			
	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	40%	30%	30%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	40%	40%	20%

A 水稲

【いもち病(穂いもち)】

[予報内容] 発生量:多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率がやや高かった。平坦部でも発生が見られ、一部のほ場では穂いもちの発生も見られた。(7月31日病害虫発生予察注意報第2号発表)

(2)9月の気温はやや低く、日照時間は平年並または少ないと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)穂いもちの発生は上位3葉の葉いもち病斑と相関が高いので、葉いもち(特に進行性病斑)が上位葉に発生している場合は、使用基準(収穫前日数)に留意して、穂いもち防除を実施する。

(2)発生初期に防除を徹底する。

(3)本府においてもQoI剤耐性菌が確認された。QoI剤耐性菌にはQoI剤の効果はなくなるため、他の系統薬剤を選択するなど、薬剤の選択に注意する。

QoI剤成分例:アゾキシストロビン(アミスター)、メミノストロビン(イモチエース、オリブライト)、オリサストロビン(嵐)等

[メモ]

(1)低温多雨、日照不足で発病が多くなる。

【紋枯病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[メモ]

- (1) 高温、多湿で発生が多くなる。
- (2) 窒素過多、密植栽培、畦畔雑草の繁茂は発病を助長する。

【内えい褐変病】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

- (1) 8月の巡回調査では、発生はやや多かった。

[メモ]

- (1) 開花期前後の強風や降雨により発生が助長される。

【もみ枯細菌病】

[予報内容] 発生量: 並～やや多い

[予報の根拠]

- (1) 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。
- (2) 昨年の発生はやや多かった。

[メモ]

- (1) 出穂前後の降雨により発生が増加する。

【縞葉枯病】(ヒメビウンカ)

[予報内容] 発生量: 並～やや多い

[予報の根拠]

- (1) ヒメビウンカの予察灯への飛来虫数は平年よりやや少なかった。
- (2) 巡回調査でのヒメビウンカの発生は、平年並であった。
- (3) 巡回調査での縞葉枯病の発生は、平年並であった。
- (4) 4月に行ったヒメビウンカの保毒虫率は、平年よりやや高かった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1) 発生が多いほ場では、ヒメビウンカの防除を徹底する。

[メモ]

- (1) 縞葉枯病はヒメビウンカによって媒介される。
- (2) 生育後期に発病すると上部の葉に病徴が現れ、穂は出るが稔実が悪くなる。
- (3) 近年、西日本で増加傾向にある。

【セジロウンカ】

[予報内容] 発生量: 並～やや少ない

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。
(2)8月の予察灯への飛来虫数は平年よりやや少なかった。
[防除上考慮すべき事項]
(1)株元をよく観察し、発生が多いほ場では、薬剤散布を行う。

【トビイロウンカ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。
(2)8月の予察灯への飛来虫数は平年同様少なかった。

[メモ]

- (1)8~9月の気温が高いと発生が多くなる。

【ツマグロヨコバイ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生は平年並であった。
(2)8月の予察灯への飛来虫数はやや少なかった。

[メモ]

- (1)平年の成虫発生ピークは、8月下旬から9月上旬である。

【ニカメイガ(ニカメイチュウ)(第二世代幼虫)】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。
(2)8月のフェロモントラップでの第一世代成虫(第2回成虫)の誘殺虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)防除適期は、発蛾最盛期から約1週間後の若齢幼虫時の9月上旬である。

[メモ]

- (1)平年の第一世代成虫(第2回成虫)の発蛾最盛期は8月下旬から9月上旬である。

【コブノメイガ】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。
- (2)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年よりやや少なかった。

【フタオビコヤガ(イネアオムシ)】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

【斑点米カメムシ類(ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、イネホソミドリカスミカメ等)】

[予報内容] 発生量: 並~やや多い

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生は一部のほ場でやや多く見られたが、全般的には平年並であった。
- (2)8月の予察灯への飛来虫数は平年並であった。

B 果樹

1 ぶどう(デラウエア)

【べと病】

[予報内容] 発生量: 並~やや多い

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、一部の露地ほ場でやや多く見られたが、全般的には平年並であった。
- (2)9月の気温はやや低く、日照時間は平年並または少ないと予想されている。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)気温20~25度で、雨が多いと発生が増加する。
- (2)早期に落葉すると、再萌芽で貯蔵養分を消費し、樹勢が低下する。
- (3)収穫終了後の園にも注意し、発生を確認すれば早期に防除する。

【褐斑病】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生はやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1) 早期に落葉すると、再萌芽で貯蔵養分を消費し、樹勢が低下する。
- (2) 収穫終了後の園にも注意し、発生を確認すれば早期に防除する。

[メモ]

- (1) アゾキシストロビン(アミスター)に対する感受性が低下している事例があるため、薬剤の選定には注意する。
- (2) QoI 剤は、耐性菌の発生を抑えるため、1年1回程度の使用にとどめる。QoI 剤成分例: アゾキシストロビン(アミスター)、クレソキシムメチル(ストロビー)、ファモキサドン(ホライズンの1成分)

2 みかん

【黒点病】

[予報内容] 発生量: 並～やや多い

【予報の根拠】

- (1) 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。
- (2) 8月は台風の影響もあり、平年より降水量が多く(大阪での8月25日までの30日間の降水量は平年の3倍強)、今後、発生が増える可能性がある。

[メモ]

- (1) この病気は、枯枝上から雨滴によって広がっていく。

【そうか病】

[予報内容] 発生量: 並～やや多い

【予報の根拠】

- (1) 8月の巡回調査では、発生は平年並であった。
- (2) 8月は台風の影響もあり、平年より降水量が多く(大阪での8月25日までの30日間の降水量は平年の3倍強)、今後、発生が増える可能性がある。

【ミカンハダニ】

[予報内容] 発生量: やや多い

【予報の根拠】

- (1) 8月の巡回調査では、発生はやや多かった。

【防除上考慮すべき事項】

- (1) 同一薬剤や同一系統の薬剤を連用すると、抵抗性が発達する恐れがある。

【ミカンサビダニ】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、一部ほ場で発生がやや多く、被害果が見られた。

[防除上考慮すべき事項]

(1)微小な害虫であるため、被害が発生するまで気がつきにくい。

3 果樹全般

【果樹カメムシ類】

[予報内容] 発生量:多い

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップへの誘殺虫数は、5月より多い状況が続いている。

(5月30日病害虫発生予察注意報第1号発表)

[防除上考慮すべき事項]

(1)果樹をよく加害するカメムシ類は、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの3種である。

(2)なし、かきなどの果樹類を加害する。多発生した場合は、みかんやぶどうを加害することもある。

(3)今年のスギ、ヒノキ花粉の飛散量は少なかった(平年の63%、昨年の38%、環境省 4月25日発表)ことから、果樹カメムシ類の主要なえさとなる球果の量も少ないと予想される。そのため、新世代成虫がえさ不足となり、果樹園への飛来が増える可能性がある。

[メモ]

(1)8月頃から新世代成虫が羽化し、果樹園に飛来が見られる。

(2)園地によって発生量に大きな差がある。

C 野菜類

1 なす

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月後半の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。

(2)発生初期の防除を徹底する。

(3)草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

[メモ]

(1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

【褐色腐敗病】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

(1)8月後半の巡回調査では、発生は平年と同様見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発病した枝や果実は、直ちにほ場外へ持ち出して処分する。

(2)初期防除が重要なので、発病を認めた場合にはすぐに防除を行う。

(3)降雨による泥のはね上がりを防止するために、マルチや敷きわらを行う。

[メモ]

(1)高温多湿時に発生が多く、梅雨後半の降雨、7～9月の雷雨や台風など、夏秋期の降雨は重要な発生要因となる。

(2)発生ほ場では、収穫果が出荷後に発病する場合がある。

【褐紋病】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月後半の露地なす巡回調査では発生はやや少なかったが、近年発生が増加傾向にある。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ほ場内の排水を良好にし、密植を避け、窒素肥料が過剰にならないよう注意する。

(2)雨滴による胞子の飛散で発生が拡大するので、発病した果実や枝は、直ちにほ場外へ持ち出して処分する。

[メモ]

(1)種子伝染するので、自家採種を行う場合は十分に注意する。

2 きゅうり

【うどんこ病】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月後半の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。
- (2)発生初期の防除を徹底する。
- (3)草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

[メモ]

- (1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。
- (2)QoI 剤(アミスター、フリント)の連用は避ける。
- (3)ブルームレス台木では、うどんこ病が発生しやすい。

【炭そ病】・【褐斑病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生は平年と同様に見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)ハウス内の過湿を避ける。
- (2)窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料のやりすぎに注意する。
- (3)QoI 剤(アミスター、ストロビー)の連用は避ける。

【べと病】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、一部ほ場で発生が見られた。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)ハウス内の過湿を避ける。
- (2)肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。
- (3)QoI 剤(アミスター、ストロビー、ホライズン)の連用は避ける。

【ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)8月の巡回調査では、発生は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)ハウスの開口部を寒冷紗等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (2)食害株の幼虫を捕殺する。

[メモ]

- (1)ハウス抑制裁培の定植直後に発生が認められることが多い。

【コナジラミ類】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除に努める。

(2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(4)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(5)ほ場周辺の除草にも努める。

3 トマト

【コナジラミ類】【トマト黄化葉巻病(TYLCV)】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月下旬の巡回調査では、コナジラミ類の発生はやや少なく、トマト黄化葉巻病(TYLCV)の発生は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)コナジラミ類の発生初期の防除に努める。

(2)施設では、開口部を寒冷紗等(0.4mm 目合)で被覆し、コナジラミ類成虫の侵入を防止する。ほ場周辺の除草にも努める。

(3)コナジラミ類の防除では、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(4)トマト黄化葉巻病に感染すると、治療薬はないので感染株はすぐに処分する。

[メモ]

(1)タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介する。

4 キャベツ等あぶらな科野菜

【コナガ】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

【ハイマダラノメイガ】

[予報内容] 発生量:並~やや多い

[予報の根拠]

(1)8月下旬の予察灯への飛来虫数は平年よりやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)セル成型苗では発生すると欠株を生じるので、発生初期に防除を徹底する。

(2)被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。

[メモ]

[防除上考慮すべき事項]

(1)苗床は寒冷紗等(2mm目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(2)食害の見られた株は、速やかに処分する。

D 野菜・花き・大豆

【アブラムシ類】

[予報内容] 発生量:並~やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月後半の巡回調査で、なす、きくとも発生は平年よりやや少なく、さといもでは平年並であった。

(2)8月の黄色水盤への飛来虫数はやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)少発生時の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)アブラムシ類は多種類のウイルス病を媒介する。

E 野菜・花き

【ミカンキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)8月の露地なす巡回調査の見取り調査や花たたき法による調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)収穫後の残さは、他作物等への発生源となるので、速やかに処分する。
- (2)きくでは膜割れ前後の防除を徹底する。

[メモ]

- (1)ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマは、ウイルス病(TSWV)を媒介する。

【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)8月の露地なす巡回調査の見取り調査や花たたき法による調査では、一部ほ場を除き、全般的には発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。
- (2)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

【シロイチモジヨトウ】

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

- (1)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。
- (2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (3)フェロモンディスペンサーを設置すれば、成虫の交尾を阻害し、被害を軽減できる。
- (4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる

【ハスモンヨトウ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。
- (2)卵塊が付着していたり、若齢幼虫が集団で食害している葉は、直ちに摘

葉し、ほ場から持ち出して処分する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【オオタバコガ】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1)8月下旬の巡回調査では、なすでの被害の発生は一部ほ場でやや多かった。

(2)8月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年よりやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)に防除を徹底する。

(2)被害のあった新芽や果実は早期に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。

(3)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

(4)黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

【ハダニ類】

[予報内容] 発生量: 並～やや多い

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査での発生は、露地なすでの発生は一部ほ場でやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期の防除を徹底する。

(2)同一薬剤の連用を避ける。

[メモ]

(1)高温、乾燥条件で多発する。

【ハモグリバエ類】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1)8月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ハウスの開口部を寒冷紗等(1mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailemail/mailmailservice/mailservicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約30件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室推進グループ

おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑(現在、工事中)

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.or.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)

(受信に要する通信費は自己負担です)